

月刊 しばうら 2022年11月号

令和4年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産大臣賞に島根県・(株)松永牧場様

枝肉単価 13,585 円で (株)丸富商店 が落札

令和4年度全国肉用牛枝肉共励会が、10月25日から10月28日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ33都道府県より選抜された第一部乳用去勢牛及び交雑去勢牛70頭、第二部和牛去勢牛272頭、第三部和牛牝牛158頭の合計500頭で開催されました。名誉賞に輝いた和牛去勢牛の219号は、島根県から出品された(株)松永牧場様の出品牛で、父が「福之姫」、母の父が「安福久」、月齢31ヶ月、生体重815kg、枝肉重量576kg、歩留70.7%、格付A5(BMS No.12)、ロース芯の面積が90㎢、バラの厚み9.3㎝、皮下脂肪の厚さ1.9㎝で、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサン抜けは良好で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れた無駄がなく正肉歩留まりの良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は13,585円で、(株)丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた(株)松永牧場様は、農林水産大臣賞、東京都都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。各部の最優秀賞は、第一部岩手県・(株)日高見牧場様の67号牛が、枝肉単価2,619円で(株)丸富商店、第二部栃木県・上野一弘様の138号牛が枝肉単価6,100円で(株)東和食品、第三部滋賀県・中川晶成様の573号牛が12,071円で(株)ふじなわにより購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部乳用・交雑去勢	70	981	1,167	846	633	789	529	64.5	70.2	60.8	1,535	2,619	1,064
第2部和牛去勢	271	862	1,082	689	590	750	452	68.5	74.6	61.8	2,690	13,585	1,277
第3部和牛牝	158	729	898	563	491	607	372	67.3	71.6	63.4	2,922	12,071	2,100

本共励会の出品牛は500頭でしたが、うち1頭が検査保留となり上場できませんでした。また、本共励会の出品規則第6条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部40頭、和牛牝の部で13頭の合計53頭が審査対象外、審査対象は446頭でした。

牛肉営業部

<10月の相場動向>

新型コロナウイルスの新規感染者数は、全数把握の簡略化により正確な数値は不明だが、継続して数万人規模で推移しているとみられる。海外入国者数の上限撤廃や全国旅行支援事業など経済の活性化に舵を切る動きがみられるが、記録的円安や、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化を受け、食料、エネルギー価格が高騰し、生活防衛意識の高まりが牛肉需要の回復にとって足枷となり、牛肉需要は引き続き厳しい状況下にある。一部、外食産業では客足が戻りつつあるものの、相場が回復するまでに至っていない。

和牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,679円	-39円	98.6%	93円	103.6%
A4	2,353円	14円	100.6%	51円	102.2%
A3	2,134円	-9円	99.6%	89円	104.4%
A2	1,819円	3円	100.2%	47円	102.7%

交雑去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,704円	-5円	99.7%	17円	101.0%
B3	1,530円	66円	104.5%	25円	101.7%
B2	1,358円	92円	107.3%	39円	103.0%

乳牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,090円	67円	106.5%	110円	111.2%

<11月の牛肉輸入量予測>

輸入牛肉通関量		9月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,207	10,015	62.0%
	米国	9,041	11,630	77.7%
	その他	1,750	2,750	63.6%
	合計	16,998	24,395	69.7%
フローズン	豪州	14,036	9,521	147.4%
	米国	10,869	8,744	124.3%
	その他	10,044	7,923	126.8%
	合計	34,949	26,188	133.5%

出典：食肉速報

財務省が発表した輸入通関実績によると、9月の輸入量は前年同月比2.7%増の5万1,947tで、うちチルドは30.3%減の1万6,998t、フローズンは、前年同月比33.5%増の3万4,949tとなった。

農畜産業振興機構によると10月の牛肉輸入数量は、前年同月比18.1%減の4万5,200t(チルド19.5%減・冷凍17.2%減)、11月は5.3%増の4万4,900t(チルド1.6%増・冷凍7.7%増)で予測している。11月の輸入量は10月より減少するものの前年同月の米国産、カナダ産等の輸入量が現地価格の高止まり等の影響から少なかったこともあって大幅に前年同期を上回ると見ている。

<11月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による11月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.7%の10万9,700頭で、品種別にみると和牛は1.6%減の5万1,900頭、交雑種は13.1%増の2万6,000頭、乳用種は2.5%増の3万200頭と予測している。

東京食肉市場の11月のと畜頭数は9,000頭を予定しています。

<11月の牛枝肉相場見通し>

海外入国者数の上限撤廃や、全国旅行支援事業の影響を受け、観光事業などの経済活動は活性化しつつあり、牛肉需要の回復に期待が高まる。一方、長期化するロシアによるウクライナ侵攻や、記録的円安に伴い物価が上昇し、家計負担の増加から牛肉需要の回復は限定的になると思われる。加えて、例年11月は牛肉需要が低迷するため、相場が急激に上昇する見込みは低いと考えられる。

輸出事業については、1月から9月までの累計実績が、数量ベースで109.9%となっており、引続き輸出拡大に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,800	B4	1,650~1,850
A4	2,300~2,450	B3	1,450~1,600
A3	2,150~2,250	B2	1,300~1,400
A2	1,950~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

9月の全国と畜頭数は、前年同月比2.3%減の135万7,272頭。また、9月の豚肉通関数量は7万2,580t(前年同月比2.3%減)と前年を下回り、前月比は16.2%の減少となった。内訳はチルドが2万9,426t(17.0%減)と減少した一方、フローズンは4万3,154t(11.1%増)と増加した。

<10月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	64,900	677	684	590
4日	64,600	713	704	890
5日	63,300	733	737	504
6日	64,300	742	737	548
7日	61,600	755	739	857
11日	70,500	769	753	574
12日	67,200	633	637	1,129
平均	65,200/日			727/日

月初の手当に加え、三連休に向けた買いも入ったことにより、相場はこの時期には異例の700円を超える展開となった。10月に入っても出荷頭数は全国的に増加とはならなかったことに加え、台風の影響により西日本からの手当もみられたことで、需給は締まった状況となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	70,100	595	584	754
14日	63,800	586	571	926
17日	65,300	585	577	682
18日	69,400	577	562	915
19日	67,600	566	541	686
20日	67,100	568	549	773
21日	63,300	556	541	913
平均	66,657/日			807/日

10月からの食品の値上がりによって末端の消費は落ち着いた状況。しかし、出荷頭数が少ないことからこの時期としては上中格差なく安定した相場での推移となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	62,700	561	548	762
25日	71,500	554	540	888
26日	69,000	566	548	814
27日	69,200	564	552	678
28日	65,600	554	539	933
31日	65,700	570	559	671
平均	67,283/日			791/日

朝晩の冷え込みが強まり、鍋物商材の引き合いが強まり始めた。一方、為替は一時1ドル150円台まで下落し、豚肉輸入はさらに厳しい状況となった。

<11月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による11月の肉豚出荷予測では146万1,000頭(前年同月比97%)と予測している。当市場の10月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約900頭を見込んでいる。

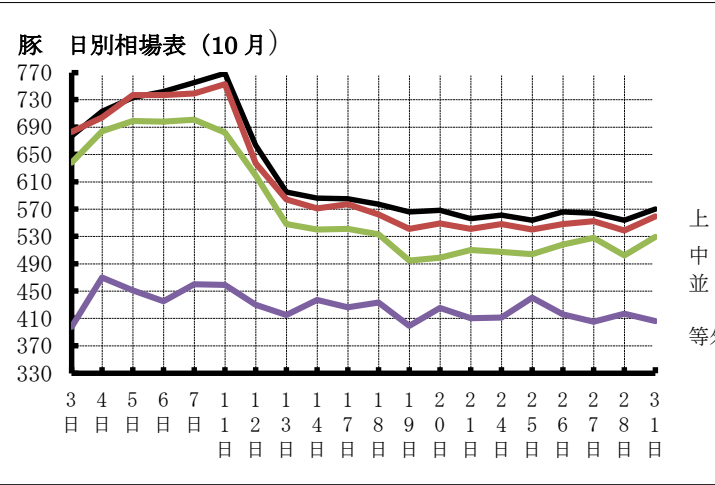
農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万6,900t(前年同月比98.0%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,400t(同94.9%)、冷凍輸入量は4万4,500t(同100.4%)と予測。

冷蔵品輸入量は、北米における継続的な現地価格の高騰及び為替相場の変動等から、前年同月を下回ると予測する。また、3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、9月まで見られたような対前年増加率は落ち着くものの、スペイン産及び米国産等の輸入量が多いと見込まれることから、前年同月をやや上回ると予測する。また3ヵ月平均は前年同期を大幅に上回ると予測する。

外国人の入国規制緩和に伴うインバウンド需要、全国旅行支援事業による行楽需要に期待が高まる。また、11月に入り気温が下がり始めることで、量販店等における鍋物需要に引き合いが期待される。11月は出荷頭数の増加により相場は安定するとみられる一方、祝日が2回あることから、手当や1日あたりの出荷頭数の変動により、一時的な相場の乱高下があることが予想される。

以上のことから東京食肉市場の上物平均価格は570円前後、中物平均価格は550円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127